

生徒会長はオジサン専用オナサポ女子高生

／＼★タイトルコール

「パチパチボイス」

「生徒会長はオジサン専用オナサポ女子高生」

／＼★イントロダクション

「素敵なパパ（あなた）に呼び出され、高級ホテルのロビーで待ち合わせ」

「表の顔は名門学園の生徒会長だが、パパの前では世話焼きでエッチが大好きな一人の女子高生。」

「パパのだらしない顔が見たい……とオナサポに出精するが……。濃厚な匂いに充てられて——」

●高級ホテルのロビー（夜）

／＼トラック「パパとロビーで」

「……ん？　こちら、第三帝国ホテルでしたわよね？」

「急いで来たから間違えたのかと思いましたわ。ありがとう」

「……ま、私に限ってそんな間違い、あり得ませんわね」

「……さてと。今日のパパはどなたかしら？　ロビーのソファーに座っていて、確か紺色のネクタイをしていると……」

沙織

沙織

沙織

沙織

沙織

沙織

沙織

沙織

沙織

沙織 「……あ、こちらを見て手を振っているあの方ですわ」

沙織 「遅くなって」めんなさい」

沙織 「（耳元でささやくように）……初めまして。九条沙織です。パパのオナサポ、一生懸命させていただきますね」

沙織 「ふふふっ。もうゾクゾクしちゃってますの？
気が早いですわよ」

沙織 「でも、私もわくわくしてたんです。生徒会の予算会議の時もずっと『パパと何して遊ぼうかしら？』って……」

沙織 「なのに、会議が長引いてしまっ……。ごめんなさいね」

沙織 「ああ、私、生徒会長ですよ？ ん？ そうですの？ パパも生徒会をやっていた……役職は書記……」

沙織 「自信なさそうに仰ってますけど書記も立派な役目ですわ。私はそう思いますの」

沙織 「では、沙織をお部屋に連れて行ってくださいますか？」

沙織 「（耳元でささやくように）……お部屋で、たあ
くっぷりオナニーサポートいたしますわね」

//トラック2 「エレベーターの中でオチンポを」

●高級ホテルのエレベーターの中（夜）

沙織 「エレベーターが来ましたわ。乗りましょう」

沙織 「……あら。パパったら、もうオチンポを勃起させてますのね。ふふっ。エレベーターの中ですが、触ってあげますわ」

沙織 「なでなで。いい子いい子……ふふっ……ぴくぴく動いてますわよ？ズボンの上から触っているのに、そんなに気持ちいいのですか？」

沙織 「そうですか。気持ちいいんですね。ふふっ。私も敏感なパパで嬉しいですわ。だって、オナサポのしがいがありますもの」

沙織 「では、ぎゅっとつかんでみますわね。ぎゅうううっ……！ あら。私の手の中で、ますます硬くなりましたわ。ふふふっ」

沙織 「今度は後ろから勃起オチンポを撫でてあげますわ。ついでに、シャツの上からパパの乳首も……ここかしら？ それともこの辺りかしら？」

沙織 「ああっ。ここにありましたのね……ふふふっ……もう乳首が硬くなってませんか？」

沙織

「オチンポをなでなでしながら、乳首をこりこり……こりこり……。どうでしょうか？ 乳首も気持ちいいですか？」

沙織

「ふふっ。聞くまでもありませんわね。パパは喘ぎながら、だらしない顔してますもの。早く直接触ってあげたいですわ」

沙織

「ちょうどよいタイミングでエレベーターが着きましたわ。では、お部屋に行きましょう」

//トラック☼ 「娘からの」奉仕です♪」

●高級ホテルの部屋（夜）

沙織

「まあ、素敵なお部屋！ さすが第三帝国ホテルですわね。ベッドも——」

沙織

「ほら。ふわふわ。素敵なお部屋をとって下さって嬉しいですわ」

沙織

「では早速、脱ぎ脱ぎしましょう。もちろん、私が脱がして差し上げますわ。じっとして下さいね、パパ」

沙織

「まずはジャケットを……。クローゼットに入れておきますわね」

沙織

「次に、ネクタイを外して……。シャツのボタンも外していきますわね。ふふっ。娘に奉仕されているみたいですか？ 私、今はパパの娘ですわよ？」

沙織

「ボタンを外せましたのでシャツを脱がせますわね。インナーも脱ぎましょう。万歳して下さい？ はい、ばんざーい」

沙織

「ふふっ。脱げましたわ。ん？ 汗ですか？ 確かに匂いますけれど、私の好きな匂いですわ。だって、これ……」

沙織

「すうすうすうすう……はあああああ……
すうすうすうすう……はああ
ああああ……」

沙織

「ああ……パパの汗……とっても興奮しますわ。どのくらいかと言いますと……」

沙織

「（耳元でささやくように）……おまんこ、濡れちゃうくらい……」

沙織

「ですから、お気になさらないで。シャワーを浴びずに、このまま続けたいくらいですもの……ちゅっ」

沙織

「ふふっ。乳首にキスをしたらピクって仰け反りましたわ。敏感なパパ……かわいい……。では、反対側も……ちゅっ」

沙織

「後でたろっぷり舐めて、摘まんで、転がして差し上げますわね。では、ベルトを外しますわ……」

沙織

「まあ、素敵なオチンポが顔を見せてくれましたわ！ 私、うっとりしちゃいます……。こちらにも……ちゅっ」

沙織

「あら。オチンポにキスをすると、亀頭がぷくつて膨らみましたわ。パパのオチンポ、かわいい……。私、オナサポできるのがとっても嬉しいですわ」

沙織

「では、ズボンを降ろして脱がせますわね……」

沙織

「素敵なブリーフも……ああ、こちらも素敵な匂い……おまんこがじゅくじゅくに濡れちゃいます……間違いなく、私のパンツにはシミができますわね……」

沙織

「どうしたんですか？ 私のパンツが見たいのです？ もちろん、パパにだけ特別に見せてあげますわ。ふふっ……ベッドに腰かけて下さい……」

沙織

「ではスカートをめくりますわよ……？（めくる息）」

沙織

「ほら。どうでしょうか？ 私のパンツ。色っぽいですか？ セクシーですか？ 赤がお好きだと聞いたので、赤を穿いてきたんですよ？ 素敵なレースでしょう？」

沙織 「ベッドに腰かけて、私のパンツを見ながらしゃかりシコシコして下さいませ」

沙織 「……あつ、いきなり激しいですわね。そんなに興奮しますか？ えっ？ シミがありますか？ それはさっきも言った通り……」

沙織 「（耳元で囁くように）……パパの汗の匂いで、おまんこ濡れちゃったんです」

沙織 「それに透けて見える？ ああ。ちゃんと剃ってきたんです。ですから、今はつるつるですわ。私のおまんこ……ふふっ……」

沙織 「パイパン、というのでしょうか？ それも見たいんですの？」

沙織 「ふふっ。必死で頷くパパ、かわいいですわあ。でも、だーめっ。もう少しだけ私のパンツでシコシコなさって下さいませ」

沙織 「そうですわ……そんな風に……シコシコ……シコシコ……ふふっ……ほら、もっとがんばって……シコシコ……シコシコ……」

沙織 「……シコシコ……シコシコ……ああ、パパの顔がだらしなくなって来ましたわ……シコシコ……シコシコ……」

沙織

「……ああ、一生懸命でかわいい……はあ……
もっとシコシコして下さいませ……シコシコ……
…シコシコ……」

沙織

「そろそろ私のおまんこ……見てみますか？ ふ
ふっ。パパは私のパンツを被って、シコシコと
オナニーして下さいませ……」

沙織

「いかがですか？ 私のパンツの匂い……。興奮
しますか？ ふふっ。オチンポがびくびくって
動いてますわよ？」

沙織

「ふふふっ……。その気持ち、とっても理解でき
ます。私もパパの汗の匂いで身体中が熱くなり
ましたから……」

沙織

「しっかり見えますか？ 私のパイパンおまんこ
……。綺麗ですか？ それはよかったですわ」

沙織

「割れ目の間から少し花卉が見えている……？
それに少し濡れているですって……？」

沙織

「……ふふっ、オナニーするパパを見てると私、
ますます興奮してしまっ……ですから、おま
んこがどんどん濡れちゃうんです……」

沙織

「ああ……シコシコが速くなりましたわ……もし
かして、もうイキそうなのですか？」

沙織 「……ん？ 私のおまんこを舐めたいのですか？
舐めながら射精したいと……」

沙織 「……わかりました。素敵なホテルを取って下
さったパパになら……」

沙織 「（耳元でささやくように）……今日だけ特別で
すわよ？ ふふふ……」

沙織 「では、被ってる私のパンツを少しめくり上げて
下さいませ。そうです。そうすれば、口が出せ
ますわね」

沙織 「私も一歩前に……。どうでしょうか？ パパの
舌……私のおまんこに届きますか？」

沙織 「あっ！ パパの顔が私の股間に……んんっ……
…… おまんこ、そんなに舐められたら、私、
気持ちよくなっちゃいます……！」

沙織 「んんっ……！ パパの舐め方、いやらしい……
…… クリトリスもおまんこの穴も、尿道も全
部べろべろって強引に舐めるんですからあ……
……！」

沙織 「もおおっ……！ パパのエッチい……！ ん
んっ……はっ、あああっ、んくっ……！
ひゃっ、ああっ……！ んんっ……はっ、あ
ああっ、んくっ……！」

沙織

「いかがですか……！？ 私のパンツを被って、私のおまんこを舐めながら、オチンポをシコシコするのは……！？」

沙織

「気持ちいいですか！？ その証拠に？ ああ、本当ですわ。ガマン汁がたっぷり染み出て、オチンポの先っちょがずぶ濡れですわね……！」

沙織

「まるで、私のおまんこみたいです……！ パパと一緒に嬉しい……！ ふふふ……！」

沙織

「んんっ！ 今度はクリトリスばっかり……！ちゅって吸って、パパの口の中ではむはむって甘噛みされて、とっても気持ちいいです、感じちゃいますわ……！」

沙織

「ああんっ！ パパ、舐めるの、ホントに上手ううっ！ はっ、あっ……！ んっ、はあんっ、んんっ！ はっ、んっ！ はっ、あっ、んっ、はっ、あああっ！」

沙織

「いっっ、オマンコ、気持ち、いっっ……！ ああっ、あああっ！ んっ、はっ、あああっ、んんっ、はあんっ！ あふっ、んんっ、はあんっ！ ひあっ、んんっ！」

沙織

「パパ！ 私の方が先にイッてしまいそうですわ！ あ、パパももう出そうですか！？ では一緒に、私と一緒にイキましょおおっ……！」

沙織 「私のおまんこを舐めながら、たっぷり射精して
下さいませえ……！」

沙織 「あああっ……！ はっ、あああ……！ んっ、
イク、私、もう——イクううううううっ……
………！」

沙織 「あああ……！ パパも射精してますわ！ 私の
太ももに、精液たっぷり、かけられていますっ！
んっ！ ああああ、とってもあつつういい
いっ………！」

沙織 「はあ……あああ……まだ射精してます……！
精液をたくさん貯めていたんですね……！
嬉しい……！ んっ………！」

沙織 「あんっ！ 今、一番敏感ですから！ これ以
上、舐めては、いけませんんっ………！ あ
んっ、あああ……！ あふっ、んんんっ……
………！」

沙織 「……はあ。パパもたっぷり射精できたみたいで
……よかったですわ……ふっ……。でも、一
発だけで終わりではないでしょう？」

沙織 「ですわよね？ まだ時間もたあーくさんありま
すから。少し休憩されますか？ 必要ない？
ふふっ。では——」

沙織 「私もベッドの上に……。そのままじっとして
て下さいね……」

沙織 「どうするか、ですか？ こうするんです……」

沙織 「（耳元で囁くように）……後ろからパパに抱き
ついて……乳首をいじって差し上げますわ……
こんな感じでコリコリって……」

沙織 「（耳元で囁くように）……いかがですか？ 私
に乳首をいじられて、気持ちいいですか？ で
も、尋ねるまでもないですわね。私の腕の中
で、ピクピクって震えてますもの」

沙織 「（耳元で囁くように）……乳首をピンって指で
弾いたり、きゅって摘んだりすると、パパは
背中を仰け反らせて……ああつ、そんなに乳首
を感じますのね……ふふっ……」

沙織 「（耳元で囁くように）……パパが敏感で、私、
とっても嬉しいですわ……。パパもどうぞ、ま
たシコシコなさって下さいね……」

沙織 「（耳元で囁くように）……ああ……そうです。
そんな感じで……シコシコ……シコシコ……。
乳首もコリコリ……コリコリ……ああ、パパの
だらしない横顔……素敵……」

沙織

「（耳元で囁くように）……私、また興奮してきましたわ……パパもいっぱい感じて下さいね……。シコシコ……シコシコ……コリコリ……コリコリ……ふふっ……」

沙織

「（耳元で囁くように）……せっかくだからパパの耳も舐めて差し上げますわね……」

沙織

「……れろっ、んちゅっ……ちゅっ、れろれろっ……んんっ……んちゅっ、れろっ……ちゅ……ちゅぷっ……ちゅっ……ちゅぷっ……ちゅくっ……れろっ、ちゅっ……」

沙織

「んちゅっ、ちゅっ……はあ……パパの耳、美味しい……夢中で舐めてしまいますわ……んっ……んぷっ……れろっ、れろっ……ちゅっ、れろっ……んぷっ……ちゅっ……」

沙織

「はあ……ちゅっれろっ……んんっ、ちゅぷっ、れろっ、ちゅぱっ……んちゅっ……れろれろっ……んあむっ……ふっ、ちゅくっ、れろ、ちゅる……ちゅっ、ちゅ、んむ……」

沙織

「また、ガマン汁がたくさん染み出てきたようですね……感じてくれて嬉しいですわ……んちゅっ、れろっ、れろっ……ちゅっ、んくっ、んちゅっ……れろっ……」

沙織

「ちゅ、ふっ、れろっ……はぶ、ん、ちゅっ……
んちゅっ……れろっ、んぶっ……ちゅっ
ちゅっ、れろれろっ、ちゅぶっ……れろっ、ん
ちゅっ、れろっ……ちゅぶっ、れろっ」

沙織

「んん……ちろっ、れろっ……ちゆく、ん、ちゅ
ぶっ……れろ、ぺろお……えろ、んちゅろ、れ
ろお……ちゅぶっ、ちゅぱっ……んちゅっ、
ちゅっ、れろっ……ちゅぶっ……」

沙織

「耳たぶも吸って差し上げますわ……ちゅううう
ううううっ……！　ちゅっ、ちゅぶっ……！
くちゅ……れろれろ……ちゅぶっくちゅ……ん
んふ……ちゅむっ……」

沙織

「パパは耳たぶも感じるんですね……。では、
もう一度……ちゅううううううっ……！
ちゅっ、ちゅうううううう！　ちゅ
ぱっ！」

沙織

「……ふう。次は反対側の耳も……もちろん、乳
首も引き続き、コリコリとかわいがってあげま
すわね……」

沙織

「ちゅぶっ、くちゅ……んんっ……れろれろ……
くちゅ……んふっ……ちゅむっ……くちゅ……
れろれろ……ちゅぶっ、れろっ、くちゅ……
ちゅっ、れろっ、ちゅぶっ……」

沙織

「……いかがですか？ 反対側の耳も……気持ちいいですか？ ふふっ。気持ちいいんですね。だって、シコシコするのが速くなりましたもの……れろっ、ちゅぷっ……ちゅっ」

沙織

「んふっ……れろれろ……ちゅぷつくちゅ、くちゅ……れろれろ……んはっ……れろれろ……れろれろ……んっ……れろれろ……ちゅむっ……くちゅ……んん……ちゅぷっ……」

沙織

「んっ……ちゅぷっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷつくちゅ……んん……くちゅちゅむっ……んんっ……くちゅ……んふっ……れろれろ……ちゅぷっ、ちゅっ、れろっ……」

沙織

「ふふふっ……乳首と耳を同時に責められて、一生懸命オナニ―するパパ、かわいい……くちゅちゅぷっ……んふ……れろれろ……ちゅぷっ……れろれろ……ちゅぷっ……」

沙織

「くちゅちゅぷっ……んふっ……ちゅぷっ……れろれろ……ちゅぷっ、ちゅっ、れろれろ……ちゅぷっ……れろれろ……ちゅむっ……くちゅ……ちゅぷつくちゅ……んちゅっ……」

沙織

「んちゅっ……じゅぶっ、れろっ、ちゅぱ、ぷちゅ、んっ……んくっ、ちゅぷっ……ちゅぷっ……くちゅ……ちゅぷっ……れろれろ……んふうん……ちゅむっ……れろっ……」

沙織

「んんっ……耳の裏もたあーっぷり舐めて差し上げますわ……くちゅちゅぷっ……れろれろ……はああん……んんっ……くちゅ、ちゅぷっ……れろっ、ちゅっ……」

沙織

「ああ、耳の裏のパパの汗……素敵な香り……私、すっごく興奮しますわ……ちゅぷっくちゅ……んん……んふっ……ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっ……」

沙織

「こちらの耳たぶも……ちゅっつっつっつっつ………ちゅっ、ちゅっつっつっつっつ………ちゅぱっ!」

沙織

「はあ……パパの耳……たっぷり堪能させていたいただきました……」

沙織

「パパはシコシコを続けて下さい。このまま乳首をいじって差し上げますから」

沙織

「……ん？ またイキそうなのですか？ では、耳を舐められながら射精なさいますか？ それとも私が乳首を舐めながら手でいたしましょうか？」

沙織

「私のおまんこ汁を、手のひらにたあーっぷりつけて……パパの乳首を舐めながらシコシコするんですの」

沙織

「そうですか。パパのオチンポ……もっと触ってほしいんですね？ ふふふっ。わかりました」

沙織

「私もパパのオチンポを楽しみたいので、少しだけ射精をガマンして下さいね？」

沙織

「……ふふふっ。ガマンして下さいますのね。あれがとう、パパ。では、パパの隣に移動しますわね」

沙織

「……ああ……パパの射精寸前のオチンポ、すごおい……今にも破裂しそうなくらいパンパンに勃起してますわね……」

沙織

「こんな素敵なオチンポは初めてですわ……手コキして差し上げるのが……とっても楽しみ……ふふふっ。では、私のおまんこ汁を……」

沙織

「……ああっ！」

沙織

「（耳元でささやくように）……ほおら、見て下さい。パパがいっぱい舐めてくれましたから、ぐちよぐちよに濡れていますの……」

沙織

「（耳元でささやくように）……おかげで、手のひらにたっぷりおまんこ汁が付きましたわ……。では、パパにピッタリ密着して、このかわいらしい乳首をいただきます……」

沙織

「……れろっ、ちゅっ……反対側の乳首も、私の指で……いじめてさしあげますわね……ふふっ。たくさん感じて下さい……ちゅっ、れろっ……ちゅぷっ、ちゅうっ……」

沙織

「……ちゅむっ……くちゅ……れろれろ……ちゅぷっくちゅ……くちゅちゅぷっ……くちゅっ、ちゅぷっんっ、くちゅ……れろれろっ、れろれろっ……ちゅむっ……ちゅぷっ……」

沙織

「……乳首も舐めるだけじゃなく、こうして……ちゅっ！ と強く吸ったり……はむっ……と嚙んだり、工夫してますのよ。ふふふっ……ちゅっ、れろれろっ……ちゅっ……」

沙織

「……ちゅっ、れろっ……ちゅっくんっ、くちゅ……ちゅぷっくちゅ……はむっ……はむっ……ふふっ、嚙むとピクンって背中を仰け反らせるパパ……かわいい……」

沙織

「れろれろ……はむっ、はむっ……ちゅうっ……ちゅぷっ……んっ、くちゅ……れろっ、ちゅっ……ちゅぷっ……れろっ、ちゅっ……ちゅぷっ……れろっ、ちゅぷっ、ちゅ……」

沙織

「……はあ。パパの乳首……とっても美味しいっ。もつとベロベロに舐めて、吸って、嚙んで……ぐちよぐちよにしたいくなりますわ……んっ……ちゅっ、れろっ……ちゅぷっ……」

沙織

「……もっと激しくしますわね……乳首を舐めるのも……オチンポをシコシコするのも……」

沙織

「んふうん……！　ちゅぶつくちゅちゅむっ……！　れろれろっ、ちゅぶつくちゅんっ、ちゅぶっ……！　んちゅちゅぶっ……れろれろ……！　ちゅむっ……くちゅ……！」

沙織

「んっ……ちゅぶっ……！　はあああ……パパのオチンポ、フル勃起してますわね、気持ちいいですか！？　ふふっ、まだイッてはダメですよっ？　しっかりガマンして下さいっ」

沙織

「ちゅぶっ……！　くちゅ……ちゅく……！　れろれろ……ちゅぶっ……！　くちゅちゅむっ……はあああ……！　ちゅくちゅぶっん……ちゅぶっ……れろれろ……！」

沙織

「ああっ、パパの乳首っ、美味しいっ……！　ちゅうっうっうっ！　ちゅぱっ！　もう一回っ……！　ちゅうっうっうっうっ……！　……！……！」

沙織

「ちゅぱっ！　もっと……もっと欲しいですわっ……！　ぐちゅ、ぴちゅ……！　れろれろ……！　はあああん……！　んんっ……！　くちゅっ、ぴちゅ、れろっ……！」

沙織

「ぴちゅくちゅ……！ んん……！ んふっ……！
……！ じゅぶぶっ……！ ぴちゅくちゅ……！
れろれろ……！ ぴちゅ……！ れろっ、
ちゅっ……！ ちゅぶっ……！」

沙織

「ぴちよ、ぴちゅ……！ んふ……！ れろれろ
……！ ぐちよ、じゅぶっ……！ ぴちゅ……！
……！ れろれろ……！ ぴちゅ……！ じゅ
ぶ、くちゅ……！ れろれろ……！」

沙織

「はあっ、ビクンビクンって震えてながら、射精
をガマンしてるパパ、とってもかわいいですわ
……！ もっと見せて下さいませっ……！
じゅぶっ、ちゅぶっ、ちゅっ……！」

沙織

「ぴちゅくちゅ……！ んんふ……！ ぴちゅ……！
……！ ちゅぴちゅ……！ んふうん……！ ぴ
ちゅくちゅ……！ れろれろ……！ ぴちゅく
ちゅ……！ じゅりゅっ……！」

沙織

「くちゅぴちゅくちゅっ、ぴちゅんっ、くちゅ……！
……！ れろれろっ、れろれろっ……！ ぴ
ちゅっ、じゅくんっ、くちゅ……！ ぴちゅく
ちゅ……！ れろれろ……！」

沙織

「ああ、パパの口からヨダレが垂れて来ました
わっ……！ もう限界ですか……！？ ふ
ふっ。わかりました。では、好きなきときに射
精して下さいっ……！ ちゅううっ！」

沙織

「はむっ……！ んちゅちゅぷっ……！ れろれろ……！ ちゅむっ……！ くちゅ……！ んっ……！ ちゅぷっ……！ はあああ、はむっ、ちゅうううう……！」

沙織

「ちゅぷっ……！ くちゅ……！ ちゅく……！ れろれろ……！ ちゅぷっ……！ くちゅちゅむっ……！ はあああ……！ ちゅくちゅぷっん……！ ちゅぷっ……！」

沙織

「あっ！ オチンポがビクビクってますわっ！ もう射精寸前ですのねっ！？ んっ、どうぞ、イッて下さいませっ……！」

沙織

「ああっ！ 精液、凄い勢いで出ましたわっ！ もっと、もっと射精して下さいっ！ れろれろ……！ ちゅく……！ れろれろ……！ ちゅぷっく……！ はああ……！」

沙織

「んっ！ まだ出てますわっ！ 空っぽになるくらい、いっぱい出してっ、パパ……！ んっ……！ あああ……！ ちゅむっ……！ くちゅ……！ ちゅううううっ！」

沙織

「ちゅぱっ！ はあ……はあ……たくさん出しましたわね……オチンポ、ぎゅって絞りますわね……」

沙織

「んっ、んっ……！ オチンポ、硬あいっ……素敵……はあ……ふふっ……」

沙織

「でも、まだまだ硬いままですわね、パパのオチンポ……。私にそれほど興奮なさっているのですか？ ふふっ。そうですか。嬉しい……！」

//トラック 「フェラチオのお時間です」

沙織

「次は私のお口なんていかがですか？ つまり、フェラチオです」

沙織

「……えっ？ 是非お願いしたいですって？ ふふっ。わかりました」

沙織

「パパの股の間に失礼しますわ」

沙織

「……はあ。素敵なオチンポ……あんなにたくさん射精したばかりなのに、こんなに元気だなんて……お若いすわね、パパ……」

沙織

「……それに匂いも素晴らしくて、とっても興奮します……ふふっ。私が夢中になってしまいますわ。では、最初から全力でフェラチオいたしますね——はあむっ」

沙織

「じゅぶぶぶう……！ んむっ、れろ、ちゅっ、ちゅっ！ ちゅぱっ！ はあああっ、はむっ！ んんっ！ んふっ！ んふうんっ、ちゅぷっ、んんっ、ちゅぱっ！」

沙織

「んふうっ、れろっ、ちゅぱっ！ はぶっ、ん
ふっ、んふうんっ、んはっ！ んぶっ、んふう
んっ、んんっ！ はふっ、んんっ、れろ
ちゅっ！ ちゅぱっ、はあああっ！」

沙織

「ああっ、パパのおひんぼ、おいひいっ……！
れろっ、ちゅぱっ、んふうんっ！ んんっ、ん
ぶっ、ちゅちゅっ！ ちゅぶ、ぶぶぶっ、
はあっ、ちゅぶっ、じゅっ！」

沙織

「ガマンひるが、いっはい、れてまふっ！ もっ
ほ、もっほ、くらはいっ！ んふうんっ、ちゅ
ぶっ、んふっ！ くちゅ、ちゅぱっ、んふっ！
んんっ、はっ、じゅぶっ！」

沙織

「んんんんっゝゝゝ！ んぶ、んぶぶぶっ！
れろ、じゅぶっ、んぶっ、んんっ！ はあ、
はあ！ んんっ！ じゅぶっ、ぐちゅっ！
じゅぶっ、じゅぶぶぶっ！」

沙織

「じゅぶっ、じゅりゅ、じゅっ！ んぶっ！ ん
んっ、んふっ！ じゅぶぶぶぶっ……！ れ
ろ、ちゅっ、じゅぶっ！ ちゅぶんっ、じゅ
りゅっ、ちゅっ、ちゅぶっ！」

沙織

「ちゅぱっ！ フェラチオしながら、パパの乳首
も両方、いじって差し上げますわね……！
ちゅぶっ！ ちゅぶっ、じゅりゅっ！ ちゅ、
ちゅぶっ！ れろれろっ！」

沙織

「んぶっ！ 乳首を、いじったら、私の口の中で、オチンポがますますおっきくなりましたわっ、ふふっ！ んぐっ！ んぶぶぶぶっ！ はぶ、ちゅ、ずちゅ、れろ！」

沙織

「んぐうっ、ふお！ んぶ、おぶっ、ぶふうっ！ れろれろっ、ぴちゅくちゅ！ んくっ！ ぴちゅくちゅ！ んふうんっ！ くちゅ！ ふああんっ！ くちゅぴちゅ！」

沙織

「ちゅぱっ！ パパの喘ぎ声が、女の子みたいで、かわいいですわっ！ 乳首をコリコリって摘ままれながらのフェラチオで、こんなに感じて下さるなんて、嬉しいっ！」

沙織

「はあああ！ ちゅくぴちゅん！ ぴちゅ！ れろろ！ んちゅれろっ！ はああ！ ぴちゅくちゅ！ んんっ！ はああ！ ぴちゅくちゅ！ じゅぶっ、じゅりゅっ！」

沙織

「んぶっ！ んぶぶぶっ！ じゅりゅっ、じゅぶ、れろっ、じゅぶっ、んんんっ！ はあ、はあ！ んんっ！ じゅぶ、れろ、ぐちゅっ！ じゅりゅっ、じゅぶっ！」

沙織

「ふふっ！ もうイキほうれふか？ ろうぞ、いつれも射精ひてくらはいっ！ パパのふえーえき、わらくひのおくひにくらはいっ！ じゅぶぶぶぶぶっ……！」

沙織

「次は、どういたしましょう？ 少し休憩なさいますか？」

沙織

「わかりました。では、ベッドで横になって少しゆっくりしましょう。私も添い寝して良いですか？ ふふっ。ありがとう、パパ。大好き」

沙織

「……パパの身体って大きいですわね。『お父さん』って感じがして、私は好きですわ……」

沙織

「……はあ。私は今とっても癒されています。このまま何かお話ししましょう、パパ」

沙織

「……疲れてるだろうから眠っても良いですって？ ふふっ。優しいですわね。でも、私がパパとお話したいんですの」

沙織

「……ん？ 私に質問ですか？ もちろん構いませんわ」

沙織

「……どうしてこんなことしてるのか……ですか？ うーん、誰にも話したことがないのですが……パパになら……」

沙織

「……私は大きなストレスを抱えていますの。学校では優秀な生徒として進学先を期待され、生徒会長として見本になるよう期待され……」

沙織

「……家ではお父様やお母様、お祖父様やお婆さまにも期待され……幼い頃から自分というものを抑えつけて生きてきましたわ」

沙織

「……そんな時、パパ活を知り、お願いされてオナニーサポートをしたとき――」

沙織

「とつても気持ちよかったです！ 『お父さん』みたいなパパが、私の手でアンアン喘いで、犬みたいに舌を出して涎を垂らして、何度も射精するんです」

沙織

「私がガマンしなさいと言えばガマンし、イキなさいと言えば、情けなく射精する。パパを手のひらで弄んでいるようで、それがもの凄く爽快なんです」

沙織

「私は、ようやく本当の自分を見つけ、それを解放することができたんです。それ以来、私はオナサポを続けています。ストレス解消と言ってしまえばそれまでですが……」

沙織

「……あつ。私の頭を撫でてくれるんですか？ ……んっ……気持ちいいです……はあ……本当に優しいパパ……大好き……」

沙織

「……私……こんなに優しくされたのは初めてで……少し泣きそうですわ……ありがとう、パパ」

沙織

「……んっ……はあ……なでなで……んっ……気持ち、いいっ……はあ……うっとりしちゃいます……んっ……はあ……んっ……パパ……パパあ……」

沙織

「……ふふっ。お礼に……というわけではないのですが、パパのオチンポが元気になったら……」

沙織

「（耳元でささやくように）……私としませんか？ セックス……。オナサポじゃなくてセックスです。パパだけ、特別……」

沙織

「（耳元でささやくように）……素敵なパパに抱かれたくなっちゃったんです。ですから、どうか私とセックスを……」

沙織

「きゃっ。さっきまで大人しかったのに、もうガチガチに勃起しちゃってますわ、パパのオチンポ。もしかして私が誘ったからですか？」

沙織

「そうですか。ふふっ。こんなに元気になってくれるなんて嬉しい」

沙織

「それではパパはこのまま寝てて下さい。私が上になります。クマさんみたいなパパに乗って、騎乗位をするんですの」

「トトラック」「騎乗位で中出ししてくださいませ」

沙織

「……では、入れますわね。ふふっ。ご心配なく。パパに撫でられたときから興奮してて、私のおまんこはぐちよぐちよなんですから……」

沙織

「んっ！ ああああああっ……パパのオチンポ、おっきいいいっ……！ おまんこに入れると、その大きさがはつきりわかりますわ……！」

沙織

「まだ入るっ、んんんんっ……！ あああ、もうすぐ、一番奥の……子宮の壁に……到達しますっ……！」

沙織

「ああっ、と、届きましたあああ……！ んっ、はっ……！ で、では動きますわね……！」

沙織

「んっ、はっ、あっ……！ んう、はあんっ……！ あっ、ああっ、んう、はっ、あああ……！ ひうっ……！ うううっ、あっ、んんっ……！ ああっ、やあんっ……！」

沙織

「パパのオチンポ、すっごおいっ……！ 亀頭がぷっくり膨らんで、カリ首がオマンコの中の壁を引っ搔いてますのっ……！ それがとっても気持ちいいっ……！」

沙織

「気持ちよすぎて、おしっこをお漏らししたみたいに、濡れちゃいますうううっ、あああっ……！ エッチなオマンコ汁が止まりませんんっ……！」

沙織

「あ、んっ、はっ、んふっ……！　んっ、はっ、あっ……！　んんくっ、あっ、はあんっ！　んんっ、はああ、んっ……！　んふうんっ、んっ、はっ、ああっ……！」

沙織

「パパは気持ちいいですかっ！？　ふふっ、気持ちいいんですねっ、よかったああっ……！　一緒に気持ちよくなりましたよねえっ、あああっ……！」

沙織

「あっ、んっ、はっ……！　あっ、はう、んぐっ、あうっ……！　あああ、んくっ、あああ……！　あっ、あああっ、はああっ……！　あふっ、んくっ、はっ、ああ……！」

沙織

「パパのかわいい乳首もいじって差し上げますわね……！　人差し指で弾くようにっ……あっ！　乳首をいじったら、オチンポがもっとおっきくなりましたわっ……！」

沙織

「ふふっ。どうですか、パパっ……！？　私の乳首責め騎乗位はっ……！？　天にも昇るような気持ちよさ、ですか……！？　嬉しいっ……！　あああっ……！」

沙織

「私もっ、感じてますっ……！　パパのオチンポ、すっごく気持ちよくて……！　私の方こそ、昇天してしまいそうですわ、あああっ……！　あふっ、んんっ……！」

沙織

「いいっ、気持ち、いいっ……！ オチンポ素敵っ！ んんっ、はあっ……！ ああっ、んんっ……！ あふっ、んくっ、あああっ、あああっ……！ んんっ、はっ……！」

沙織

「ああ、パパの乳首、美味しそう……！ もう食べちゃいますっ……！」

沙織

「びちよ、ぴちゅ……！ ちゅううつ……！ ああ、乳首、美味しいっ！ んふ……！ れろれろ……！ ぐちよ、じゅぶっ……！ ぴちゅ……！ れろれろ、ぴちゅ……！」

沙織

「舐めてない方の乳首は指でコリコリして差し上げますわっ……！ じゅぶ、くちゅ……！ れろれろ……！ ぴちゅくちゅ……！ んんふ……！ ぴちゅ、ちゅっ……！」

沙織

「ちゅっ、れろっ……！ ちゅぶっ、んんっ……！ んんっ、んちゅっ、れろっ、ちゅっ……！ んんっ……ちゅっ、ちゅぱっ……！ れろっ、ちゅぶっ、れろっ……！」

沙織

「くちゅっ、ぴちゅく、ちゅっ……！ ぴちゅんっ、くちゅ……！ れろれろっ、れろれろっ……！ ぴちゅっ……！ れろっ、ちゅっ……！ れろれろっ、ちゅっ……！」

沙織

「もっと、パパの乳首、いじめて差し上げますっ、ちゅうっうっうっうっ……！　ちゅぱっ！　ふふっ、このように強く吸われるのも、気持ち、いいですかっ……！？」

沙織

「ふふっ！　あんあん喘いでるパパ、本当にかわいい……！　くちゅぴちゅ……！　はああ……！　ちゅくぴちゅ、んっ、ぴちゅ……！　れろろ、んちゅ、れろっ……！」

沙織

「ぷあっ！　はあっ、はあっ！　ぴちゅくちゅ、んっ……！　ちゅく、れろろ、ちゅぷっ……！　ぴちゅく、ちゅぷっ……！　んっ、れろっ、ちゅっ、ぴちゅくちゅ……！」

沙織

「ちゅぱっ！　はあ、はあっ！　どうしたのですか、パパ！？　私のおっぱいが見たい……？　ふふっ、もちろん構いませんわっ！　では、脱ぎますわね……！」

沙織

「あっ、んっ……！　騎乗位しながら、脱ぐのっ、いやらしくて、興奮しますか……！？　パパのオチンポ、オマンコの中で、ぴくぴくって動きましたわっ、ふふっ……！」

沙織

「ブラもこのまま……外しますわ……！　んっ……！」

沙織

「外しました……パパの頭に、被せて、あげますわ……んんっ……あっ、クマさんみたいでかわいっ、ふふっ……ああっ……！　んっ、はっ、あああ……！」

沙織

「あっ……！　私の、おっぱい、触るんですのっ？　どうぞ、パパの好きなようにっ、なさって下さいっ、んんっ……！」

沙織

「あっ！　パパにおっぱい、揉まれてますっ、んんっ！　気持ち、いいっ！　やんっ！　乳首もそんな、きゅって摘まむなんてっ！　ああっ……！……！」

沙織

「やんっ！　パパの触り方、優しいっ！　乳首、コリコリってして、指で撫でて、パパ、とっても上手うっ、あああっ！　私、とっても感じちゃいますっ！　んんっ……！」

沙織

「ああっ、んんっ、はっ、あああ……んんっ、はっ、ああああ……んんっ、あああ……！　ひゃっ、あっ、はっ……んんっ……ああああ……！　あふっ、んっ、はあんっ……！」

沙織

「パパ……！　次は私、パパとキス、したいですわ……！　もちろん、二つの乳首は両手でいいり続けますから……！」

沙織

「ああっ！　パパもキスしたいのですか！？　嬉しいっ！　キス、しましょう、パパ……！」

沙織

「ちゅううつ……！ んふうん！ ぴちゆく
ちゅ！ んんぶぶぶつ！ れろれろ！ ぴ
ちゆくちゅ！ ちゆくん、ぴちゅ！ んふつ！
ちゆく！ れろれろ！ ぴちゅ！」

沙織

「れろれろ！ くちゅ！ ちゅぱつ！ ああつ……
……！ パパとのキス、気持ち良いっ！ うつと
りしちやううつ……！ もっとキスしましょ
うつ！ ちゅううつうつうつ……！」

沙織

「はああ……！ れろつ、ちゅぶつ！ ぴちゆく
ちゅ！ れろれろ！ ぴちゆくちゅう！ んふ
うつんつ！ ぴちゆくちゅ、んんんつ！ れ
ろつ、ちゅつ、れろつ、じゅぶつ！」

沙織

「じゅくんつ、くちゅ！ ぴちゆくちゅ！ れろ
れろ！ ぴちゅんつ、くちゅ！ んあむつ！
じゅぶつ、ちゅつ、れろつ、ちゆる！
ちゅつ、んぐつ！ んあ、んぶつ！」

沙織

「はぶ、ん、ちゅつ！ れろつ、ちゅつ！ ちゅ
ぶつ、ちゅ、んぶつ！ んっ！ んぐつ！ れ
ろつ、ちゅぶつ、ちゅううつ、れろれろつ！
ちゅぶつ、ちゅつ、じゅりゅつ！」

沙織

「パパの唾液、美味しいっ！ もっと、もっと欲
しいですわっ！ ですから、パパ、べろーって
舌を出して下さいっ！ 私がパパの舌を、食べ
ちゃいます、からっ、あああっ！」

沙織

「ああっ！ 舌を出したパパのだらしない顔っ、素敵っ、興奮しますっ！ ちゅうううううううう……！ んんっ……！ ちゅりゅっ、れろっ、ちゅぶっ、ちゅっ！」

沙織

「ちゅくんっ、くちゅ！ ちゅぶつくちゅ！ れろろ！ ちゅぶっ！ んっ、くちゅ！ ちゅぶっ！ くちゅ！ ちゅむっ！ れろれろっ、ちゅぶっ！ くちゅんっ、ちゅぶ！」

沙織

「んぐっ！ んぶぶぶぶっ……！ はぶ、ちゅ、ずちゅ、れろ！ んぐうっ、ふお！ んぶ、おぶっ、ぶふうっ！ れろれろっ、ぴちゅくちゅ！ んくっ！ ぴちゅくちゅ！」

沙織

「んふううんっ！ くちゅ！ ぶあっ！ はあ、はあっ！ パパ、私、もうイキそうになってきましたわっ！」

沙織

「パパですか！？ 嬉しいっ！ 一緒にイキましょうっ！ ふぶっ、もちろん、私の、中に、出して下さって、構いませんわっ！」

沙織

「パパの精液、たっぷり、おまんこに出して下さいっ！ ああんっ！ オチンポ、おつきくなりましたわあ！ ああああっ！」

沙織

「好きっ！ パパ大好きっ！ 私、すっかりパパのことが、好きになってしまいましたわっ！ あああっ！」

沙織

「あっ、やあっ！　だめですわっ、も、もお、こ
んなの、凄いいいっ！　あああっ、んっ、あ
ああっ！」

沙織

「ひゃっ！　あっ！　んんっ、本当にイッちやう
ううっ！　パパのオチンポで、私のおまんこ
が、イッちやいますうううっ！！」

沙織

「パパもイッて下さいっ！　私の騎乗位で、私に
二つの乳首を弄られて、だらしない顔で、射精
して下さいっ！」

沙織

「あっ、あああっ、だめっ！　イク、イクイク――
――……！」

沙織

「イクうううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううう
ううっ！……！」

沙織

「ああっ！　中に、おまんこにつ、精液、いっぱ
い出てますっ！　熱くて、おまんこの中、火傷
しちやいそうですわああっ！」

沙織

「んんんっ！　まだ出てますっ！　あんなに射精
したのに、まだこんなに精液が出るなんて、素
敵っ！　んんんっ！」

沙織

「あっ、やあんっ！　また出ましたわあ！　す
ごおいっ！　んんっ！　あああ、はっ、あ
ああっ、んんっ、ああっ……！」

沙織

「……ああ、やっと射精が治まりましたわあ……私の……子宮の中が……パパの熱い精液でいっぱいになってます……はっきりわかりますわ……ふふふっ……」

沙織

「……はあ。とっても幸せです……んんっ……はあ……」

沙織

「……パパ、もう一度……キスしましょう……ちゅっ……れろっ……ちゅ、ぺろっ……はあ、ちゅる、ちゅっ、ちゅぶっ……ん……はあ、じゅぶっ、じゅりゅっ……」

沙織

「……あんっ。私のこと、抱きしめて下さるんですか……嬉しいっ……じゅぶっ、れろっ……ちゅば、ぷちゅ、んっ……ぷえろ、れろ……んくっ、れろ……ちゅっ……」

沙織

「……はあ。パパに中出しされて、私も一緒にイッて……こうしてぐったりしたままキスをする……幸せです……この時間がずっと続けばいいのに……ちゅっ、れろっ……」

沙織

「……パパ……また私とエッチして下さいますか？……はい、ありがとうございます。約束ですよ……ふふっ……ちゅっ、れろっ……ちゅぶ、ちゅっ……ちゅ……」

沙織

「……もう少しだけ……パパと繋がったまま……
パパの身体の上で……幸せな時間を……
私に下さい……はあ……」

//トラック 8 「お別れのロビー」

●高級ホテルのロビー（夜）

沙織

「素敵な時間を下さってありがとう、パパ。今度
は私の方からご連絡差し上げても……？」

沙織

「ふふっ。嬉しい。パパも会いたくなったら、す
ぐ連絡して下さいませ」

沙織

「（耳元で囁くように）……またセックス……し
ましょうね。パパのあつつうい精液……私のオ
マンコに……出して下さい……今日みたいに……
……ふふっ……」

沙織

「では、また会いましょう。それまでお元気で。
さようなら、大好きなパパ」

//おわり
